第3巻　第7号　通算27号

相模原市議会議員

大沢ようこ

民主・新無所属の会

民主 PRESS MINSHU

民主党プレス民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話03－3595－9988

号外

相模原市議会報告　　発行日　平成27年1月吉日

安全安心のまちづくり（健康寿命延伸）をめざして

平成26年12月定例会　一般質問内容

人口減少、少子高齢社会と叫ばれる中で、介護保健や国民医療費の抑制が求められています。一方、人生最後まで生き活きと暮らしたいと願うことは、誰しもが望んでいることだと思います。

本市相模原の市民健康への取組みは、平成12年10月の「さがみはら健康都市宣言」がその原点となります。宣言制定の翌年に、「相模原市保健医療計画」を策定し健康目標を定め活動されてきて健康づくり普及員や食生活改善推進団体などによる活発な運動により、生活習慣病予防教室や保健師による出張健康相談等の事業を継続して実施されてきたとのこと。また、平成16年に設立されたさがみはら市民健康づくり会議が、行政と協働して健康増進活動を展開、健康フェスタや街頭キャンペーン講習会などの様々な事業を市との協働により実施して、市民の健康に資する行政を実施しているとのことでした。

市民の健康問題は、常に古くて新しい問題であるわけですが、本市の今後の相模原市民の健康についての課題の認識と取組み意欲について、以上の活動をして、社会情勢の変化や、市民の健康ニーズを十分に踏まえて、市民、家庭、地域が一体となって健康づくりの取組みを、より一層推進してまいりたいとのことでしたが、私が問題と思うのは、行政が取組むべき健康概念がここ数年でガラッと変わってきているということなのです。それに全く触れられておりませんでしたので、問題とさせていただきました。

それは、とりわけ、**人の健康の目標は、今や平均寿命以上の全う、単なる延命寿命の延伸ではなく、いかに健康で日常の生活ができて人生最期まで全うできるかに焦点が当てられきており、行政も目標として取り組まなければならなくなっているのです。それが、健康寿命のこと**で、厚生労働省も、二年前2012年からガラッとそれにシフトいたしました。

「健康寿命」とは、世界保健機関（WHO）が2000年に打ち出した概念で、介護を受けたり病気で寝たきりになったりせず、日常生活を自立して健康的に送ることのできる期間のこととされています。その発端は、厚生労働省が2010年に初めて調査し推計したところ、男性が平均寿命79.55歳のところ健康寿命は70.42歳。女性が平均寿命86.30歳のところ健康寿命は73.62歳で、平均寿命より男性は9年余り、女性は12年余り短いことが判明し、日本は世界でトップクラスの長寿国となっているにもかかわらずにこの結果に驚き、改めて我が国の、健康寿命の延伸の目標を掲げ、「健康寿命をのばしましょう」をスローガンに「スマートライフプロジェクト」を立上げ、国民全体が人生の最後まで元気に健康で楽しく毎日が送れることを目標として厚生労働省は国民運動を始めました。運動、食生活、禁煙の３分野を中心に、具体的なアクションの呼びかけを行ない、更なる健康寿命の延伸を、プロジェクトに参画する企業・団体・自治体と協力・連携しながら全国的に推進しているところです。要は、これからは、平均寿命ではなく健康寿命が課題の時代です。

本市の皆さんは、知っていますか？市からもこのような情報は届いていないと思います。答弁では、今後の取組みについて、一切、健康寿命のことには触れられておられませんでしたが、実は、「みんな元気相模原健康プラン２１」の冒頭、 加山市長の挨拶文で、市民の健康寿命の延伸や自分が健康であると感じている方を増やすことを目的に、新たな相模原市保健医療計画を策定したとの表明をされていたのです。けれどもこれまで、全くその重要性を認識することなく来てしまったということです。

私は、やはり本市は本格的に健康寿命延伸対策に乗りだすべきものと思います。そして、本市が真剣に取組むとするならば、人の健康寿命を伸ばすには食やスポーツなどの健康志向の実践を個人が推進するモチベーションを持って行ってもらうことがどうしても必要で、それは市民個人の生活習慣の改善に及ばないわけにはゆかない、従って行政も個人の生活習慣に及ぶ指導も必要となります。例えば、減塩に取り組むならば学校給食から始まって市民の食卓にいたるまでの生活に全体で取組んで改善してゆくような、徹底した市の政策をやる必要があるということです。本当に健康寿命延伸に取り組むならば、行政がリーダーシップを持って、すべての方向から市挙げて全体的に徹底して個人に向けて戦略的な健康に対する取り組む要求があります。

その点で、これについて有名な松本市の取り組みは参考になります。松本市は、市政の最重要政策として、「健康寿命延伸都市・松本」の創造プロジェクトを、国と同じ時の2012年に立ち上げ、「健康寿命」の延伸達成を目標とし、経済、産業、観光、教育、環境、都市基盤など様々な分野が連携し、一体的に進めることとしました。そして、市民と行政との協働で総合的な政策として戦略的に取組み、松本市から世界へ発信するとの理念を打ち立て、世界健康首都会議開催も主導し行なうなど、独自の戦略プログラムを実行に移しています。健康寿命延伸目標に向けての徹底した姿勢の価値観を打ち出したのが特徴です。これが重要です。今こそ本市も同様に、健康寿命延伸に向けての徹底した戦略を構築した取組む必要があるのではないかと思うのです。

市民が安全で安心に暮らせるまち、住んでいて幸せと感じられるまちが一番。そのための市政ではないでしょうか。

青少年のネット依存について

スマートフォンや携帯型ゲーム機によるネット依存について、小中学生への影響が深刻化しています。その対応について昨年６月定例会での答弁では神奈川県、横浜市、川崎市と合同の、小学５・６年生と中学生対象の「ネット利用実態調査」を行うということでしたが、それが７月に行なわれましたので、調査結果と今後の対応について伺いました。答弁では、インターネットの適正利用に向けた啓発リーフレットの改訂や、ＰＴＡとの連携を図り、子どもと保護者で考える場の設定など具体的な取り組みを進めるとのことでした。

平成15年市議初当選

現在三期目

〈所属委員会〉

・文教常任委員会委員

・交通問題特別委員会委員

〈相模原市議会〉

・民主・新無所属の会代表

〈民主党神奈川県第14区総支部〉

・幹事長

〈他〉

・発達障害サポーターズ代表

・みんなで歌おうｲﾝ相模原代表

＜三期目その他担当した役職＞

・民生常任委員会委員長

・相模原市監査委員

・民主党神奈川県連総支部連合会副代表

〈プロフィール〉

・相模原市生まれ

・清新幼稚園卒業

・向陽小学校卒業(鼓笛隊一期生)

・玉川学園中高等部卒業

・玉川大学文学部芸術学科卒業

・大学在学中からピアノ教室主宰

写真で見る YOKO の議員活動 2014/10～

平成26年10月11日　千代田七丁目
千代田地区敬老会催し　　自治会館

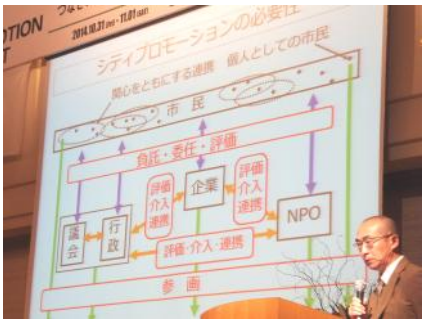
平成26年10月16日
夢くらぶスポーツフェスティバル
麻溝公園グラウンドにて

平成26年10月24日
小山公民館祭りに相模原マスコット
キャラクター　**さがみん**登場！

平成26年10月26日
星が丘ふれあいフェスティバル
星が丘小学校にて

平成26年10月25日
相模原市安全･安心まちづくり市民
大会　あじさい会館にて

平成26年11月17日
加山市長へ民主党市議団予算編成における
重点施策の要望書提出



平成26年10月31日
全国シティープロモーションサミット　ホテルセンチュリー相模大野にて

平成26年11月8日
もとむら賢太郎先生おめでとうございます

平成26年11月15日
横山公民館区防災訓練　横山小学校

平成26年12月5日
城山湖グランド第3グランド新設視察